



ぼうさいこくたい2018 セッション

防災教育交流フォーラム

～今、防災教育に足りないものは何か～』

防災教育実践に関するアンケート調査  
結果報告

一般社団法人防災教育普及協会  
2019年1月



# アンケート調査の概要

- 本アンケートは2018年10月14日(日)に「ぼうさいこくたい2018」セッションとして弊会が主催した『防災教育交流フォーラム～今、防災教育に足りないものは何か～』の参加者に対して、無記名で行ったものです。
- アンケート項目は防災教育チャレンジプラン・内閣府(防災担当)が作成した『地域における防災教育の実践に関する手引き』を参考としました。手引きは以下のURLからPDFでダウンロードできます。

[http://www.bousai.go.jp/kyoiku/pdf/h27bousaikyoiku\\_guidline\\_jp.pdf](http://www.bousai.go.jp/kyoiku/pdf/h27bousaikyoiku_guidline_jp.pdf)

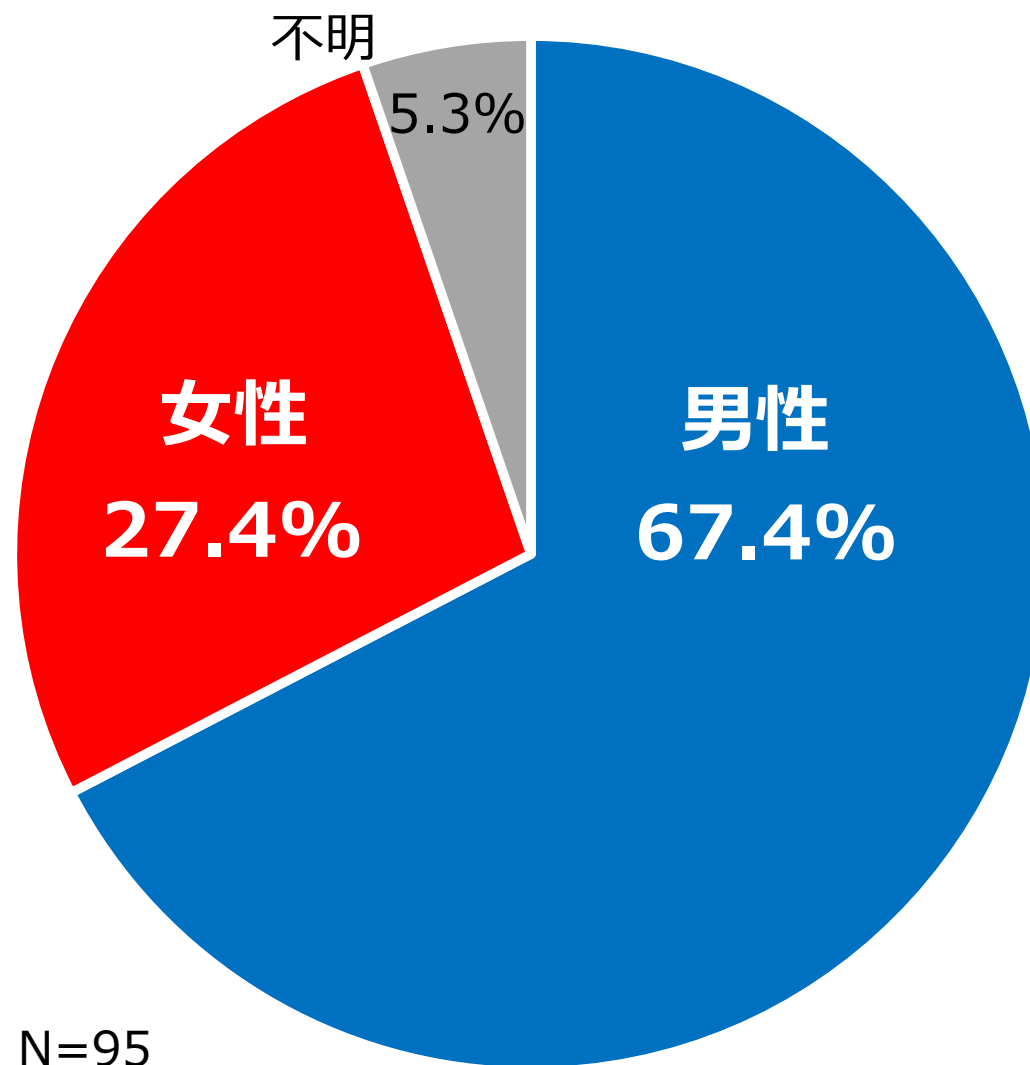
## 謝 辞

アンケートの設計・分析にあたっては、木村玲欧氏（兵庫県立大学環境人間学部准教授、弊会理事）及び赤瀬蓮氏（兵庫県立大学環境人間学部4年生）にご協力いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。



- アンケート回答者の性別割合
- アンケート回答者の年齢分布
- 防災活動・防災教育を行っているか
- 防災活動・防災教育開始年
- 活動の対象
- 今後、防災活動・防災教育に取り組む中で課題に感じている事
- 自分が関わっている防災活動・防災教育にあてはまる事
- 自分が関わっている防災活動・防災教育にあてはまる事の因子分析結果
- まとめ

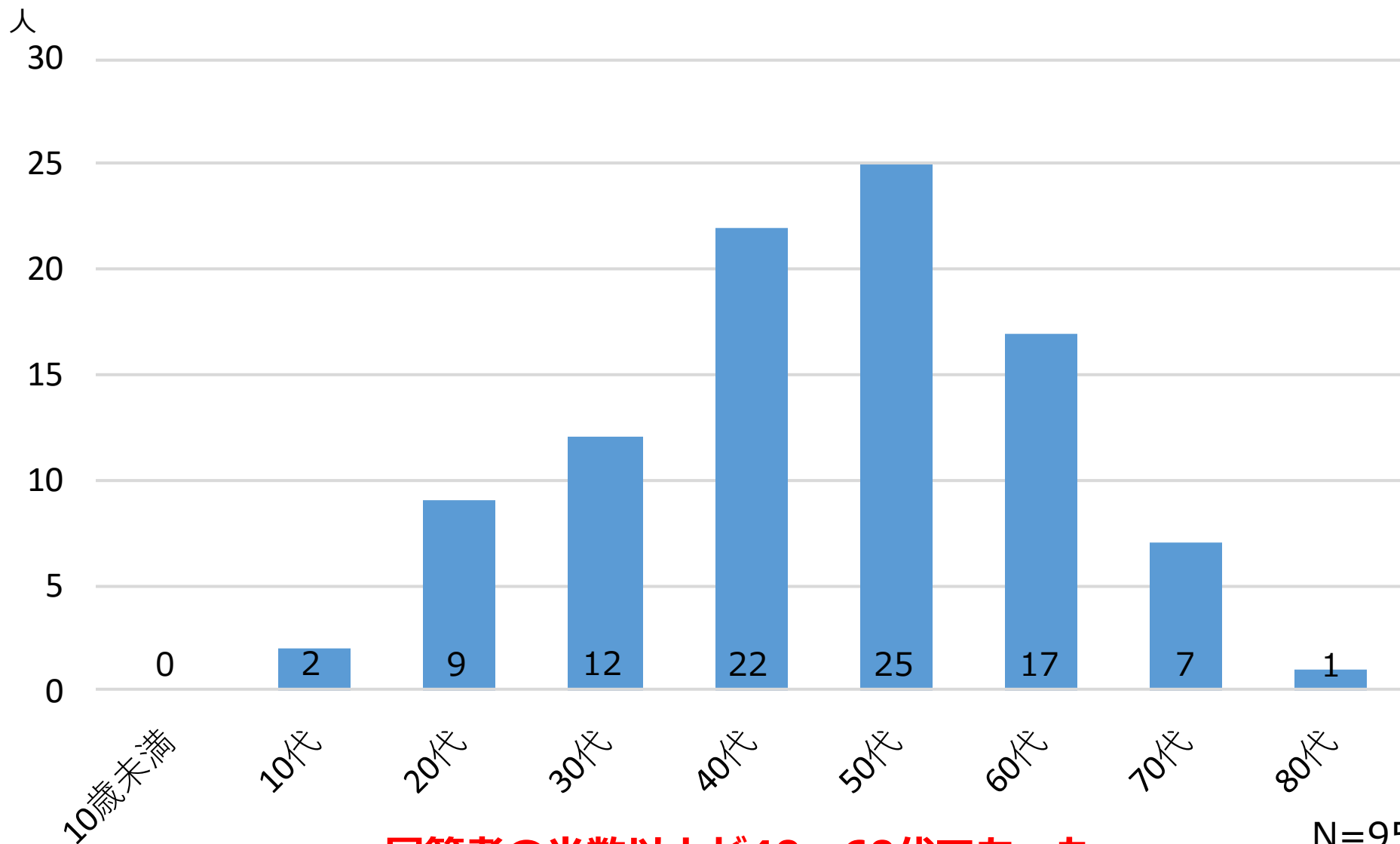
# アンケート回答者の性別割合



回答者の67.4%が男性、27.4%が女性であった

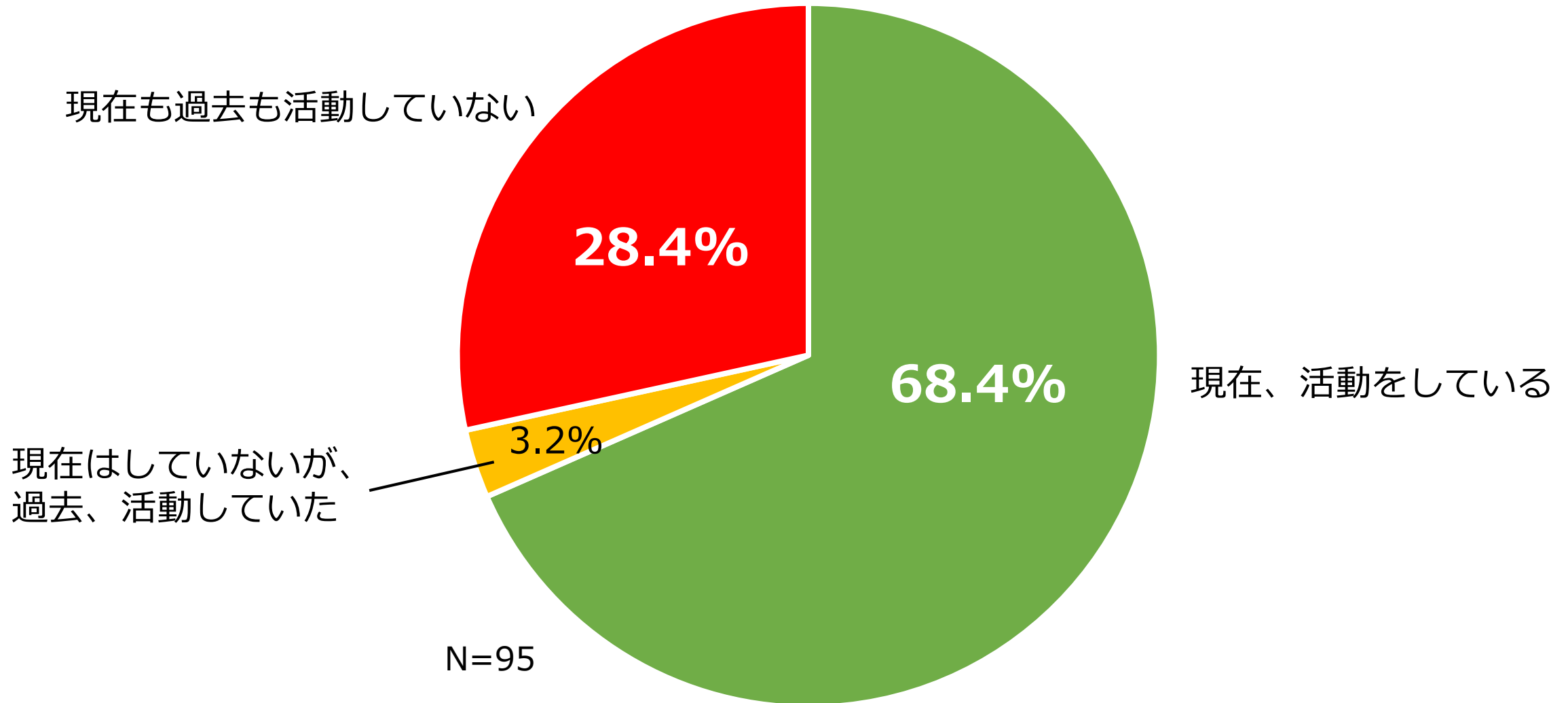


# アンケート回答者の年齢分布



回答者の半数以上が40～60代であった

# 自身の防災活動・防災教育実践の状況

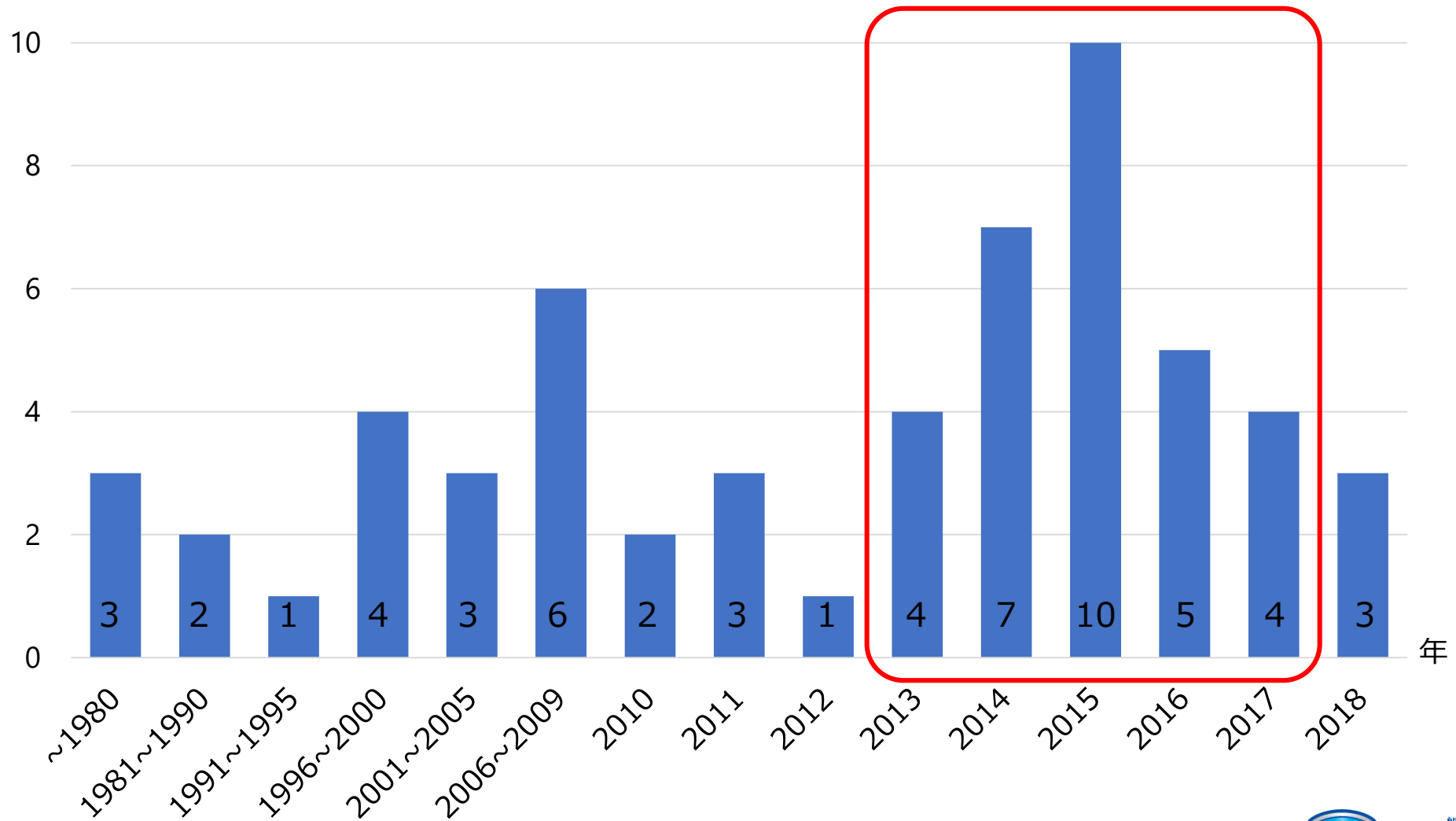


**回答者のうち70%以上が防災活動・防災教育を行った経験があった**

# 防災活動・防災教育を開始した年

人 12

回答者の約半数が2015年前後（2013～2017年）から防災活動・防災教育を開始した



N=63

# 活動の対象（複数回答可）

地域（自治体・自治会・管理組合等）

56.3

会社・団体等

32.8

学校（児童生徒）

25.0

学校（教職員・PTA等）

21.9

その他

21.9

N=64  
複数回答可

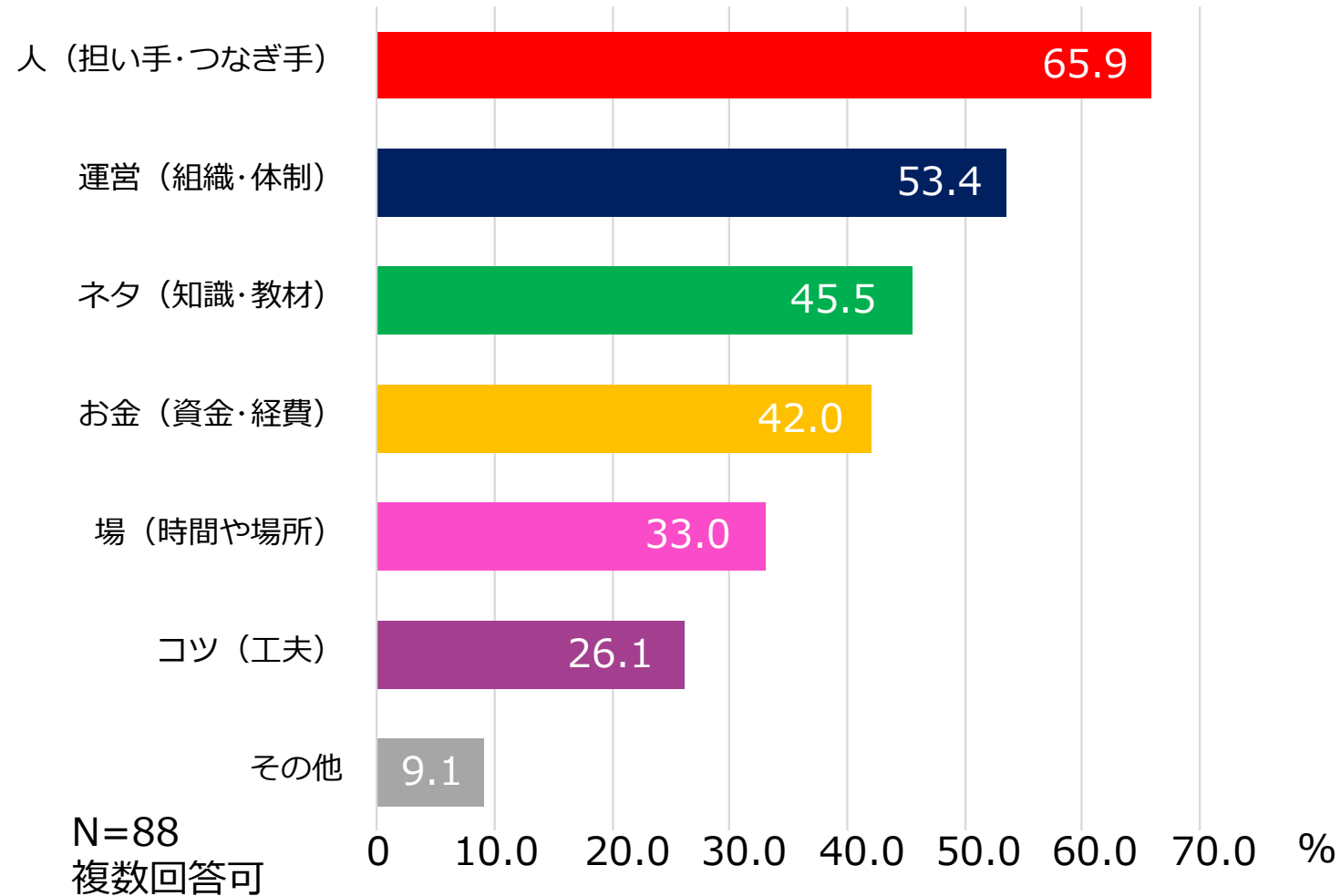
0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 %

**防災活動・防災教育を行っている方の半数以上が地域（自治体・自治会・管理組合等）で活動していた**



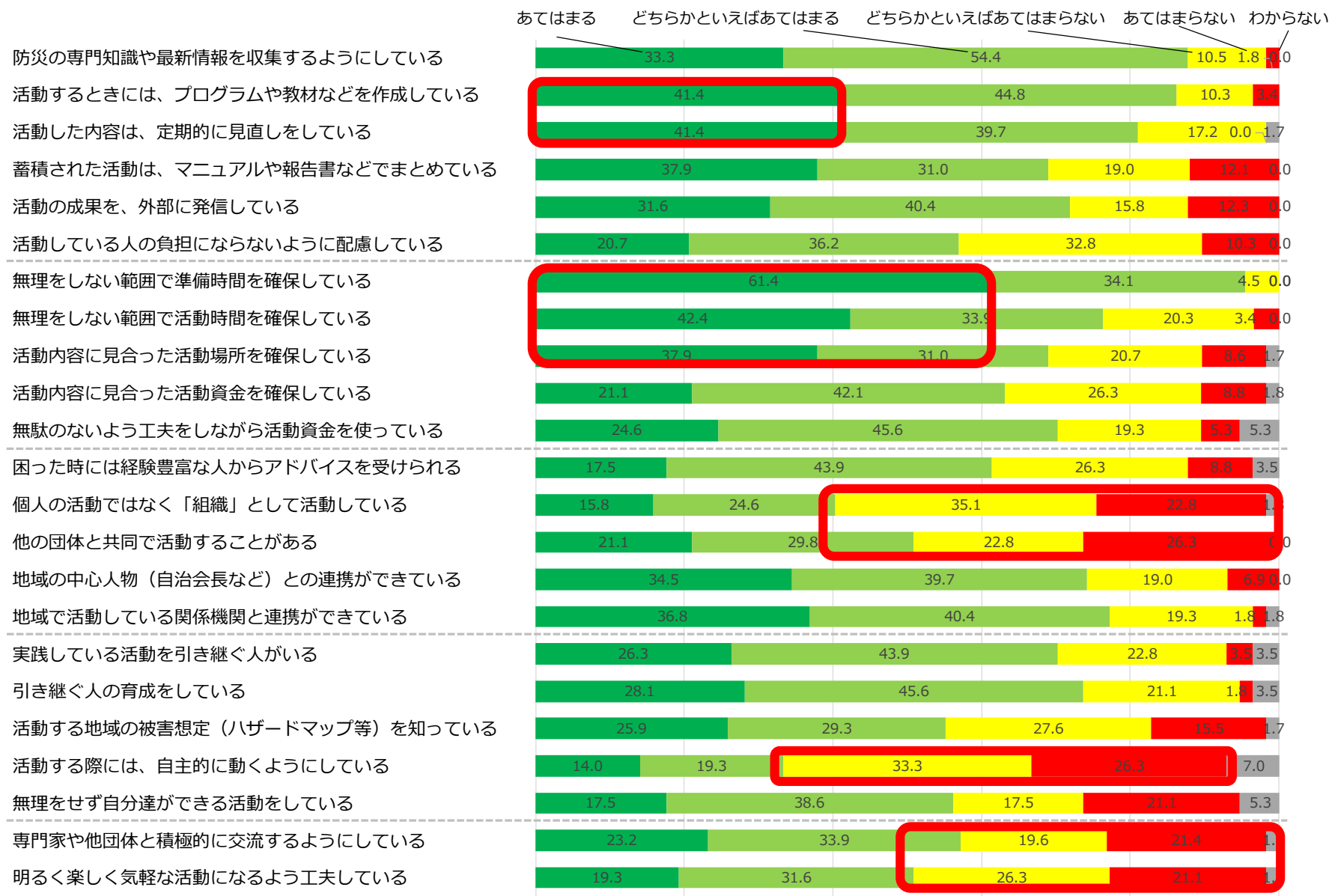


# 防災活動・防災教育に取り組むにあたって現在課題に感じていること（複数回答可）



回答者のうち半数以上が人（担い手・繋ぎ手）、運営（組織・体制）について課題を感じていた

# 自分が関わっている防災活動・防災教育に当てはまること



**準備・活動時間の確保、プログラムの作成・見直し、地域連携はできている一方、ある特定の個人によって周りが引っ張られており、明るく・楽しく・気軽な活動が難しくなっていたり、専門家・他団体との交流が活発でないとする人も少なからず見られた**

# 自分が関わっている防災活動・防災教育にあてはまることの因子分析結果


	因子 1	2	3	4	5	6
無理をしない範囲で準備時間を確保している	.97	-.05	.14	.29	.02	-.43
無理をしない範囲で活動時間を確保している	.89	-.13	.08	-.08	.16	.08
活動内容に見合った活動場所を確保している	.69	-.17	-.01	-.14	.13	.26
活動している人の負担にならないように配慮している	.49	-.21	-.14	.32	.18	.20
活動内容に見合った活動資金を確保している	.48	.30	-.24	.07	-.12	.16
実践している活動を引き継ぐ人がいる	-.17	1.07	-.04	.09	.15	-.13
引き継ぐ人の育成をしている	-.22	.83	.08	.04	.03	.14
無駄のないよう工夫をしながら活動資金を使っている	.26	.36	-.28	.14	.03	.30
困った時には経験豊富な人からアドバイスを受けられる	-.03	.28	-.22	.24	.21	.06
活動する際には、自主的に動くようにしている	-.08	-.03	.80	.07	.02	-.04
無理をせず自分達ができる活動をしている	.13	-.18	.59	.13	-.06	.32
活動の成果を、外部に発信している	.43	.24	.53	-.29	-.11	.11
蓄積された活動は、マニュアルや報告書などでまとめている	.20	.38	.44	-.08	.08	.02
活動する地域の被害想定（ハザードマップ等）を知っている	-.08	-.04	.41	-.03	.29	.13
明るく楽しく気軽な活動になるよう工夫している	.10	.03	.01	.66	.01	-.03
専門家や他団体と積極的に交流するようにしている	-.21	.21	.30	.52	.07	.23
個人の活動ではなく「組織」として活動している	.23	.31	-.02	.51	-.27	-.07
他の団体と共同で活動することがある	-.06	.06	.10	.44	-.07	.14
活動した内容は、定期的に見直しをしている	.22	.23	-.02	-.11	.97	-.07
活動するときには、プログラムや教材などを作成している	.20	.08	-.02	-.09	.60	-.04
防災の専門知識や最新情報を収集するようにしている	-.12	-.18	.30	.27	.57	-.07
地域の中心人物（自治会長など）との連携ができています	.10	.03	.23	.09	-.07	.84
地域で活動している関係機関と連携ができています	.06	.22	.22	.14	-.05	.58

**23項目について**  
**因子分析を行ったところ、**  
**①活動時間・場所、**  
**②人材確保・育成、**  
**③自主的な活動・情報発信、**  
**④気軽な活動・**  
**他団体との交流、**  
**⑤活動のプログラム化・**  
**見直し、**  
**⑥地域との連携**  
**といった6因子が抽出された。**

# まとめ

- 回答者の67.4%が男性、27.4%が女性で、半数以上が40～60代であった(4-5p.)
- 回答者のうち70%以上が防災活動・防災教育を行った経験があった(6p.)
- 回答者の約半数が2015年前後（2013～2017年）から防災活動・防災教育を開始した(7p.)
- 防災活動・防災教育を行っているとは回答した半数以上が地域（自治体・自治会・管理組合等）で活動していた(8p.)
- 回答者のうち半数以上が防災活動・防災教育に取り組むにあたって、人（担い手・繋ぎ手）、運営（組織・体制）について課題を感じていた(9p.)
- 自分が関わっている防災活動・防災教育にあてはまる事について、『地域における防災教育の実践に関する手引き』における、「防災教育を実践する上での五箇条」「防災教育を実践するにあたっての18ポイント」に書かれている計23項目を基に尋ねたところ、準備・活動時間の確保、プログラムの作成・見直し、地域連携はできている一方、ある特定の個人によって周りが引っ張られており、明るく・楽しく・気軽な活動が難しくなっていたり、専門家・他団体との交流が活発でないとする人も少なからず見られた(11p.)
- 上記の23項目について因子分析を行ったところ、①活動時間・場所、②人材確保・育成、③自主的な活動・情報発信、④気軽な活動・他団体との交流、⑤活動のプログラム化・見直し、⑥地域との連携といった6因子が抽出された。人々は防災活動・防災教育を、6つの側面から認識・評価していることが考えられる(12p.)





弊会では本アンケート調査結果をふまえ、防災教育の普及啓発に向けて様々な活動に取り組んでまいります。  
今後ともご支援・ご協力のほどお願い申し上げます。

一般社団法人防災教育普及協会  
<http://www.bousai-edu.jp/>

